

大学発・技術 PR レポート

1. 研究室概要

大学名	首都大学東京 大学院		研究者	高橋洋
			職位	助教
研究領域	気候システム(気象学・気候学)		窓口担当	産学公連携センター
研究キーワード	地球温暖化、都市高温化、気候適応策、気候緩和策			
住所	〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 プロジェクト研究棟 303			
電話	042-677-2729	E-mail	soudanml@mj.tmu.ac.jp	
FAX	042-677-5640	URL	http://climate.geog.ues.tmu.ac.jp/hiroshi3/index.html	

2. 技術PR事項

『アジアと東京の将来気候変化リスクと気候情報の利用法』

1. 概要

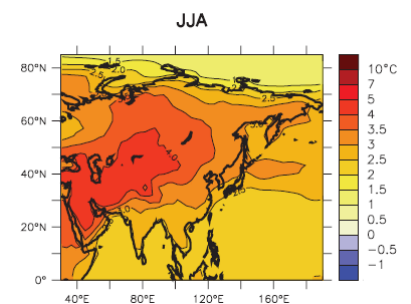
(1) 背景

地球温暖化問題が世界的な問題となっている今、アジアと東京において、将来の気候変化に対して備えるために、研究者が気候情報を読み解き、適切に施策担当者に情報を伝える必要があります。

人口が集中する都市において、生活基盤に重大な影響を及ぼす恐れがある気候変動への対応は、国際的に極めて重要な政策課題です。都市部においては、台風などの短時間に甚大な被害を及ぼす自然災害に加えて、じわじわと影響を及ぼす、地球規模の温暖化と都市規模の温暖化の重ね合わせによる超高温状態が大きな問題となっています。都市規模の温暖化については、東京圏において、今後の経済成長の鈍化が予測されるため、大きな変化はないと考えられますが、地球規模の温暖化は今後も継続すると考えられます。つまり、都市と郊外の気温コントラストは変化しなくとも、全体の気温が上昇することによる高温リスクは極めて大きいものです。気候変動への対応の必要性に関する社会的認識はますます高まりつつあり、その政策を立案するとともに、自然災害に対応しつつ、持続的な社会を構築するためには、高い信頼性を有する気候変動予測、さらに気候変動に関するリスク情報が求められています。

(2) 研究概要

本研究グループでは、過去の気象・気候データと将来予測のための気候モデル実験を利用して、都市スケールから全球スケールまでの気候変化の科学的な理解を目指しています。また、その気候情報をどのように施策担当者や民間事業者などに伝えるべきかについても、重要な研究テーマとして取り組んでいます。



将来の気温予測
(IPCC,2007)

2. 希望する連携内容(共同研究、試作品作りなど)と相談に対応できる技術分野

- ◆ 地球規模の温暖化研究、都市規模のヒートアイランド研究、都市型豪雨研究、気象モデリング研究、気候情報 ⇒ (対象)行政の施策担当者、民間の気象情報サービス事業者など

3. 特記事項

- 代表論文: 競争的研究資金により研究中
文部科学省 『グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス(GRENE)事業』 環境情報分野
環境省 『環境研究総合推進費』